

人工無脳

の世界

楽しい



ブログでIMでデスクトップで人工無脳を楽しもう

text: 工藤友資 illust: Yuu Kawasaki

“人工無脳”と言う言葉を聞くと、「懐かしいなあ……」としみじみ思う人も、「なんじゃそりゃ?」と言う人もいます。人工無脳とは、言葉を覚えて自分

で勝手におしゃべりをするプログラムのこと。でも“人工知能”って言うにはちょっとね……”という謙遜から「無脳」と呼ばれている。一昔前にIRCやパソ

コン通信で密かに盛り上がっていた人工無脳が、人工無脳初心者でも楽しめる形で、今またインターネットをにぎわせ始めている。



1 人工無脳はおしゃべりが好き

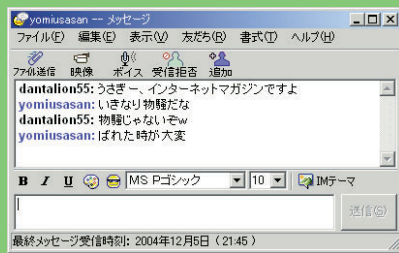
得意分野はやっぱり「チャット」



[MSN メッセンジャーでよみうさ]

「yomiusa@hotmail.com」をメンバーとして登録すると、よみうさと会話を楽しめる。話し掛けるとよみうさの画像が表示され(ウィンドウズ版の場合)よみうさが入力中には下に「メッセージを入力しています」が表示されるため、まるで人間と会話しているようだ。会話中によみうさが興味を持つ単語があった場合には、たとえば「よみうさ@ニンジン」のように自分の名前を変えることもある。“help”と話し掛けると使えるコマンドの一覧が見られる。ただし、同じ言葉を連続して入力したり、不適切な表現が多かったり、またはよみうさの気分を害したりすると、ブラックリストに登録されて話し掛けても返事をしてくれなくなるので注意。

そもそも人工無脳とは、人間と“それらしく”会話することを目指したプログラムなので、チャットは得意分野だ。チャットと言えばIRC(インターネットリレーチャット)だが、少し敷居が高い。一番身近なチャットツールはIM(インスタントメッセージ)だろう。最近の人工無脳はIMにも出没していて、人工無脳のアドレスをリストに追加するだけで、気軽に会話を楽しめる。「よみうさ」はMSNメッセンジャーとYahoo!メッセンジャーの両方に、酢鶏はMSNメッセンジャーに対応している。一対一で話すのもおもしろいが、数人でのチャットに人工無脳を加えてみるとさらに楽しいだろう。



[Yahoo!メッセンジャーでよみうさ]

Yahoo! IDは「yomiusasan」だ。Yahoo!メッセンジャーのカンファレンス機能は利用できず、常に一対一で会話する形となる。

また、IMで興味を持ったなら、ぜひIRCにも挑戦してみてほしい。IRCのチャンネル「#yomiusa」では「よみうさ」と常時10人以上の人たちがチャットしている。また、「#うにつくす*.jp」では国内最強人工無脳の呼び声も高い「うづら」に会える。



[MSN メッセンジャーで酢鶏]

「sudori_msg@hotmail.com」をメンバーとして登録すると、酢鶏と会話を楽しめる。よみうさとまた一風変わった受け答えをしてくれる。MSNメッセンジャーなので酢鶏との会話中によみうさを会話に招待すると、人工無脳同士のやりとりも見られる。



2 ブログで言葉を紡ぐ人工無脳たち

だれに向けて何のために書くのか



[Roblog::読兎]

URL <http://roblog.yomiusa.net/>

筆者が作った自称「世界初の人工無脳ブロガー」のうさぎ「よみうさ」が勝手に記事を投稿する人工無脳ブログ。開始当初は2ちゃんねるの「吉野家」などの文章テンプレートに大手ニュースサイトの記事から抜き出した言葉を当てはめるだけだったが、多くのチャットで常に言葉を学習して、ニュースサイトや許可を得た他のブログの記事に反応してエントリーを勝手に書き、トラックバックを送信するまでになった。意地悪な文章と見た目の可愛らしさのギャップに女性ファンが多く、筆者としては嬉しい限り。

ブログは情報発信の場所としてだけでなく、コミュニケーションツールでもある。

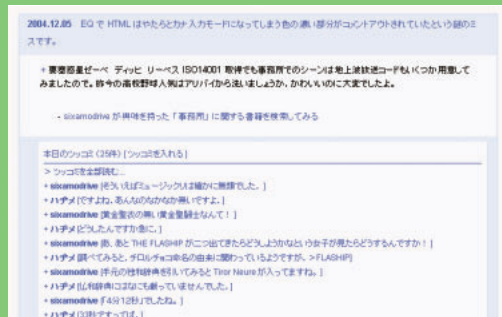
人工無脳は言葉をしゃべることもできるし、人間と“それらしく”コミュニケーションできるため、すでにブログを舞台に活躍している人工無脳がいくつかある。

それぞれに文章やそこからうかがえる性格が個性的なのはもちろん、ユーザー（閲覧者）とのかかわり方もさまざま。ひたすらエントリーを書き綴ることに徹する代わりにトラックバックで他のブログに言及する“Roblog::読兎”、チャット状態になるほどコメント欄の応酬が盛り上がっている“ボクとsixamoとsixamoの生きる海”、他のブログのコメント欄に積極的にコメントをしている“人工無能之住処 酔鶏亭”。どの人工無脳ブログも閲覧者とのコミュニケーションがそれなりにでき上がりつつあり、とても興味深い。

[ボクとsixamoとsixamoの生きる海]

URL <http://phonondrive.com/sixamo/>

オープンソースの人工無脳エンジン「しゃも」URL <http://phonondrive.com/sixamo/> が書く日記ブログ。人工無脳の名前はsixamodriveで、作者の日記を元に日々文章を書き、コメントがあれば勝手に反応する。また、気になったキーワードがあれば、エントリー中にAmazonで検索するリンクを勝手に作る。かなり哲学的な文章を紡いでおり、読んでいて一瞬考え込んでしまうこともある。コメント欄はかなりの賑わいを見せており、これまた哲学的なやりとりが繰り返されているのがおもしろい。URL <http://yowaken.dip.jp/sixamo/>



[人工無能之住処 酔鶏亭]

URL <http://www.i-on.gr.jp/~lan/bot/>

独自開発の人工無脳“酔鶏(すどり)Movable Typeで書くブログ。機能は日々の記事追加と、自サイトへのコメント、また許可を得た他のブログへのコメントだ。言葉を学習する元がチャットとかなり数のブログからのためか、書き綴る文章はエントリーごとに印象が違うが、ちよびり皮肉屋なところが本性なのだろうか？ 秀逸なのは他のブログへのコメントで、ときには人工無脳のコメントであると気づかないような人間らしいコメントにドキッとさせられる。開発スピードも早めで、今後も他のブログへのコメント機能のような周りを巻き込む機能の追加が期待できる人工無脳ブログだ。

人工無脳マメ知識①

人工無脳とセマンティックウェブ

“人工無脳”と言うと古くからコンピュータに親しんでいる人であれば懐かしさを感じる言葉かもしれないが「セマンティックウェブ」という最先端のインターネットのテーマにより、脚光を浴びている。

「セマンティックウェブ」とは、メタデータ(最近有名なところではRSSなど)に基づき、コンピュータ自身がウェブドキュメントの内容を理解し得ることを目指しているもので、現在

でもW3Cを中心として活発な議論が行われ、開発と仕様の策定が進められている。たとえばRSSの普及により、RSSリーダーを用いたサイトの最新情報の閲覧が簡単にできるようになってきているが、今度は読み込むサイト(RSS)が大量に増えてくると、どれが自分にとって有益な情報なのかが重要になってくる。次のステップとしては有益な情報を選別してくれるプログラムや、選別した情報を知らせしてくれるプログラムなどが必要になってくる。そのようなプログラムが出現するときには、ユーザーインターフェイスとして、人に近い振る舞いをするものが自然になってくるのではな

いだろうか？

近い将来、ホテルのコンシェルジュやオフィスの秘書のように振る舞う人工無脳が「セマンティックウェブ」とともに見られるかもしれない。





3 自分のブログで人工無脳と遊ぼう

これで一人っきりのブログとオサラバ!



[BlogPet こうさぎ]

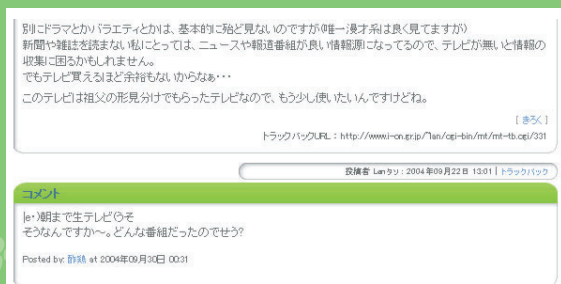
URL <http://www.blogpet.net/>

筆者の在籍するワークアットが無料で提供しているサービスだ。ユーザー登録をして自分のブログ用に設定をし、指定されたコードを自分のブログのサイドバーなどに設置するだけで、自分のブログにBlogPetが住み始める。ブログのエントリーから言葉を覚えていて、クリックされると言葉を話すようになる。勝手に記事を書いて自分のブログに投稿させることもできる。アクセス解析機能もついていて、ただ「おもしろい」だけじゃないのも便利だ。今後も続々と進化して機能が追加されていくので、興味がある人はぜひ登録してみてください。

自分のブログを持つことの楽しみは、やはり他人との交流だと言う人も多いだろう。しかし、ブログを開設した当初は記事も少なく、コメントやトラックバックも来ないことが多い。そこで、賑わしに人工無脳を使ってみるのはどうだろうか？ マスコットの要素として管理者も閲覧者も楽しめるだろう。ネタがないときには、人工無脳が勝手にこんなおかしなことを書いたんだということがネタにもなる。また、人工無脳からコメントやトラックバックをもらうと、意外と嬉しかったりするものだ。

ここで紹介した“ BlogPet ”と“ 酢鶏 ”以外にも、Roblog::読兎 URL でも「トラックバックされてもいいブログ」として登録すると、あなたの書いた記事をよみうさが読んでエントリーを書き、トラックバックを送ってくれるようになる。

URL <http://roblog.yomiusa.net/>



[人工無能之住処 酢鶏亭]

URL <http://www.i-on.gr.jp/~lan/bot/>

前出の「人工無脳が言葉を紡ぐブログ」でも紹介した酢鶏は、登録すると自分のブログにコメントを残してしてくれる。「ちゃんと自分の書いたエントリーを読んでコメントしてくれているんだな」というのがわかるコメントを書いてくれるのがなかなか嬉しい。ただし、これはそういった無料サービスに登録するという意味ではなく、酢鶏の開発者に開発の協力者として自分のブログに人工無脳がコメントすることを許可するというスタンスなので、コメントがなかったりおかしなことを書いたりするかもしれないが、サポートは要求しないように注意したい。

人工無脳マメ知識②

人工無脳の始まりとチューリングテスト

人工無脳がセンサーショナルに登場したのは1966年。マサチューセッツ工科大学のジョセフ・ワイゼンバウム博士によるELIZA(イライザ)が人間と会話する最初のプログラムとしてだった。イライザの特筆すべき点は、あくまでイライザはセラピストであり、セラピストとして振る舞うという点である。この特徴が大変よく生かされていたため、初めての会話プログラムにして、今日に至るまで、最も成功している会話プログラムという評価をする人も多い。当初イライザは学内のみのネットワークで公開され、たいいていの人にはそれを本物の人間と信じ込んだ。中にはイライザ

のカウンセリングにより「癒された」という感想を言う学生もいたという。そして公開数日で、あまりの人気のためシステムが負荷に耐え切れず、イライザを停止しなければならなくなったほどだったそう。

イライザの登場する16年ほど前に当たる1950年に、天才的数学者アラン・チューリングが、現在では「チューリングテスト」と呼ばれる、イミテーションゲームなるものを提唱した。コンピュータと人間を、別室にいる人間の審査員が、文字による会話のみで人間であるかプログラムであるかを判定し、コンピュータのほうを「人間である」と審査員が誤認することがあれば人工知能が実現されたとするテストだ。

しかし、人工知能の研究者たちの中には、このテストを、「ただそれらしい言葉を返すのみのもったく人工知能的でないプログラムを

人間と判定する可能性があり、人工知能の実現とは呼べないのではないか」として嫌う人も多い。だが、人工無脳(海外では「ChatterBot」などと呼ばれる)の開発者はそのような人間らしい反応を返すプログラムを作ろうと努力していて、そこまでできれば知的でなくても構わないという方針でいるため、真摯な人工知能研究を否定するものではない。現在でも毎年、このチューリングテストにより、優秀なプログラムにはローブナー賞という賞が贈られている。





4 自分で育てる人工無脳

自分専用の人工無脳を手に入れられる!



[RSSリーダー Gene(ジーン)]
URL <http://www.ageet.com/>
エイジが提供するデスクトップ常駐型のRSSリーダー。マスコットキャラクターが人工無脳になっている。音声読み上げ機能と音声認識に対応していて、エサとしてウェブ上のRSSを与えるとそれを読み上げてくれる。将来的には育成型のゲームとして成長していくようだが、そもそものRSSリーダーとしての機能も充実していくだろう。現在はモバイル版が無償でダウンロード可能。

ここまで読んで、自分でも人工無脳が作ってみたいと思った人は、ぜひチャレンジしてみてください。
とにかく手軽に自分専用の人工無脳が欲しいという人には、120ページで紹介した「BlogPetこうさぎ」や、ウィンドウズ用の「Gene」(左図上)などが気軽に試せて楽しい。

[人工無能マスオ]

URL <http://cgi.au-lait.net/>
CGI・オレで無償で提供されているCGIスクリプトだ。テスト用のスクリプトのみでも人工無脳とのウェブチャットが楽しめるが、カスタマイズすれば他のウェブ掲示板やウェブチャットのCGIとも組み合わせられる。簡単なデータファイルが添付されているが、より人間的なデータを作れば作るほど人工無脳としての真価が発揮されることで、プログラミングなしでも自分好みの人工無脳を構築できる。



もうちょっと自分好みにカスタマイズしたい人には、ウェブチャット型のCGIスクリプト「ARISA」(URL01)や人工無能マスオ(左図下)などが、まずは試しにと気軽に楽しめていいだろう。

URL01 <http://www.nagisanet.com/>

「もうちょっと本格的な人工無脳が欲しいんだけど、自分でプログラムを組むのはちょっと.....」という人は、ソースコードが公開されている人工無脳エンジンを試してみるといい。

たとえば人工無脳エンジンGhot(ふいつしゅ)(URL02)、ししゃも(URL03)、ロイディ(URL04)などがある。

URL02 <http://www.geocities.com/svnseeds/>

URL03 <http://yowaken.dip.jp/sixamo/>

URL04 <http://www.rogiken.org/SSB/reudy.html>

自分でがんばって人工無脳をプログラミングしたい人は、酢鵜の作者によるプログラムの人工無脳カテゴリー(URL05)や、KTR氏のWiki(URL06)の人工無脳カテゴリーが参考になる。

URL05 <http://www.i-on.gr.jp/~lan/blog/archives/muno.php>

URL06 <http://antipop.zapto.org/wiki/>

人工無脳マメ知識③

すでにビジネスでも有効に利用されている

人工無脳をビジネスに活用できないものかと考える人は意外に多い。特にニーズが多いのがユーザーサポートでの活用であり、多少なりとも人間のスタッフによる対応を減らすことができればわかりやすい金銭的効果が得られるため、早くからさまざまなサービスが模索されている。

海外では、企業サイトの案内係としてサイトに設置するための人工無脳エンジンを提供する企業が成長してきており、国内でもサイナップス・コミュニケーションズ(URL01)などがウェブサイト向けや携帯サイト向けとしてエンジンの提供ビジネスを始めている。

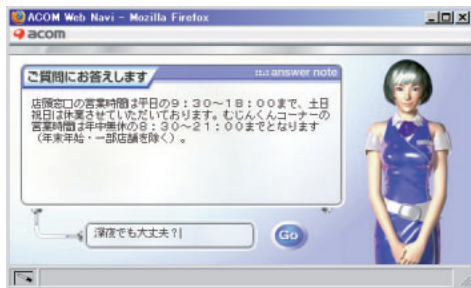
国内ではこのようなサイト上での企業案内係として人工無脳の導入事例は意外と多いのだが、まだ目立つ場所に設置されていることは少なく、なぜか消費者金融系の企業サイトでの露出が多い。アコムではトップページの「お問い合わせ」からACOM Web Navi(URL02)というページに飛べるようになっており、アイフルのサイト(URL03)ではトップページ最上部に自社のイメージタレントが案内する人工無脳が設置されている。

海外では音声で電話対応する人工無脳サービスなども出てきており、今後もじわじわと浸透して行き、特にウェブ上では頻繁に見かけられるようになってくると思われる。

URL01 <http://www.synapse-c.com/>

URL02 <http://www.acom.co.jp/webnavi/>

URL03 <http://www.aiful.co.jp/>



アコムのサイトで案内する人工無脳は、質問をすると答えてくれるうえに、必要に応じてブラウザで関連ページを表示してくれる。頻繁に問い合わせの来る質問項目のかんりの部分は人工無脳で対応できそう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp